

# 地域の会

<http://www.tiikinokai.jp>



▲第118回定例会（柏崎原子力広報センター）



▲第117回定例会（柏崎原子力広報センター）

## 第6期 地域の会委員

平成25年5月1日から2年間の任期で第6期地域の会がスタートしました。（五十音順、敬称略）

No.	委員氏名	推薦団体	再任	No.	委員氏名	推薦団体	再任
1	浅賀千穂	プルサーマルを考える柏崎刈羽市民ネットワーク	○	11	竹内一公	(一社)柏崎青年会議所	○
2	会長 新野良子	かしわざき男女共同参画推進市民会議	○	12	武本和幸	柏崎刈羽原発反対地元三団体	○
3	石坂泰男	柏崎商工会議所	○	13	武本昌之	連合新潟・柏崎地域協議会	○
4	川口寛	柏崎エネルギーフォーラム	○	14	千原健二	荒浜21フォーラム	
5	桑原保芳	松浜地区町内会	○	15	徳永久行	柏崎市	○
6	副会長 佐藤正幸	高浜地区町内会	○	16	内藤利成	原発問題を考える刈羽西山住民の会	
7	三宮政邦	刈羽エネルギー懇談会	○	17	中原節子	くらしをみつめる…柏桃の輪	
8	高桑千恵	原発反対刈羽村を守る会	○	18	前田弘実	協同組合ニューエネルギーリサーチ	○
9	副会長 高橋武	柏崎市	○	19	吉野信哉	プルサーマルを考える医療者の会	○
10	高橋優一	原発問題を考える柏崎刈羽地域連絡センター	○	20	渡辺直人	刈羽村商工会	

平成25年4月30日をもって退任された方 池田知明、伊比 智、大島正忠、佐藤幸子、佐藤直弘、滝沢茂義、田中貞子、中沢洋一、渡辺芳樹（五十音順、敬称略）

## CONTENTS

### 第117回定例会

新安全基準の骨子案および原子力防災訓練の概要について説明を受け質疑応答 ..... 2

### 第118回定例会

原子力防災訓練に参加・視察して ..... 3

トピックス 原子力防災訓練の視察の様子  
発電所を巡る主な動き ..... 4

## 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼働することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

### 地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた25名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視  
(2)事業者等への提言  
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供  
(4)委員の研修  
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）  
臨時会（必要に応じ開催）  
※会は、原則すべて公開。



# 新安全基準の骨子案および原子力防災訓練の概要について説明を受け質疑応答



前回定例会以降の動きについて  
質疑応答を行った。

その後、「原子力発電所の新安全  
基準の骨子案」や「原子力防災訓練」  
をテーマに説明を受け質疑応答を  
行った。

## 【前回定例会以降の動き】 について質疑応答】

東京電力からは、安田層の調査結  
果が出ているはずなのに説明がな  
かった。遅れているという報告が  
あってもよい。報告に値しない事  
項と判断されたのか。

東京電力 現在、ボーリング後の解析  
試料を用いて正確な年代を同定する  
分析をしている。結果がわかり次第  
報告したい。本日そのことに触れな  
かったことはお詫びしたい。

## 【新安全基準の骨子案について 委員意見】

● 活断層の定義が曖昧。12〜13万年前  
までの活動がなければ活断層と認め  
ないという基準では安心できない。  
40万年前が妥当ではないか。  
● 福島事故の全容がまだ解っていない  
のに、新安全基準とはあまりにも拙速

骨子案では、大量の放射性物質を放  
出する事故を想定しながら世界最高  
の安全を強調している。新安全基準  
に基づく再稼働は容認できない。

● 中国は原発を80基まで増やすと発表  
した。PM2.5の空気汚染のように、  
海外で発生したものに對して国はど  
う国民を守るのか。世界では原発を  
増やすという中で、他国からの影響  
に対する対策を新安全基準を考える  
中でも検討してもらいたい。

● 格納容器にフィルターベントをつけ  
るというが、こういったものを後付  
けすることで施設自体の耐震性がど  
うなるのか検討しているのか。また、  
原発事故は、耐震性の高いSクラス  
の建物や構造物だけの損傷で起こる  
わけではない。原発の安全は新安全  
基準だけで守れるものではなく、福  
島の事故をきちんと収めたという確  
証がない限り安全ではない。原発の  
そばに住んでいない人たちが、机上  
の安全基準をつくり、本当に安全だ  
という結論を出されてはたまらない。

● 世界一の安全基準や防災計画で原子  
力発電の安全宣言をしても、国民は  
再稼働に対して疑心暗鬼になってい  
る。原子力だけに頼る電力確保は目  
指さないでほしい。日本は法治国家  
であり、住民の希望、意見を無視す  
ることはできないと思う。中国では  
原発を増やすというが、中国製では  
信頼できないので新しい原子炉は日  
本の技術で造ってもらえないか。

● 横村所長も参加している日本保全学  
会では、もっと甘い基準にしろと規  
制庁に申し入れをしている。また国  
の総合資源エネルギー調査会総合部  
会の委員は15人だが、原発慎重論派  
の委員が減り、推進派が多数となっ  
た事が批判されている。かつて医学  
薬学の領域で利益相反が問題になり、  
以来、厳しい基準が設けられたと記  
憶している。原子力だけが旧態依然  
として、利益関係者が優遇される構

造にある。専門家の立ち位置を明確  
にした上で、議論しなければならな  
いと思う。

● 原子力規制委員会に対する、新潟県  
の新安全基準全体への意見「福島事  
故の検証がないうちに新たな安全基  
準が策定されるとすれば、真に安全  
を確保することはできないものと考  
える」という指摘は重い。

● 活断層の定義は、地質学上の第四紀  
(約260万年前から現在に至る期間)  
以降に断層ができていれば活断層で  
ある。根本から見直してもらわない  
と地元は安心できない。

● 専門家の話や引用を出して不安や心  
配を口にすることが、この会の目的  
になるのか。国民の権限としては、  
パブリックコメントで意見を言うこ  
としかできないのではないか。

## 【質疑応答】

安全性を上げるためには、多重に  
チェックできる仕組みを作っても  
らいたい。また、電気系統で確認  
するだけでなく目視でも確認でき  
る対策はあるか。

東京電力 例えば、人が近づけない格  
納容器内のバルブなどは、何らかの  
信号によって開閉を確認せざるを得  
ないため、直流バッテリーの強化が  
極めて重要。ポータブルのものを含  
め幾重にも電源対策をとっている。  
なお、格納容器の外はバルブの手動  
化といった原始的な方法でも対策を  
とっている。



## 【原子力防災訓練について質疑応答】

● 防災無線での情報伝達は全市対象  
か。また避難される方たちの集合  
場所は事前に決まっているか。  
SPEEDIを使うことは考慮し  
ているか。

柏崎市 防災行政無線は、前日の夕方  
と当日朝に訓練事前周知の広報を全  
市一斉に放送する。また、実動訓練  
を行う7つのコミュニティ地区限定  
で4回放送する予定。集合場所は地  
域の実情を聞く意味も含め相談しな  
がら決めている。

新潟県 SPEEDIは、訓練当日の  
気象状況などのデータを入れて確認  
し、モニタリングに活用する。今回  
の避難は即時避難区域(5km圏内)  
が対象なので、放射性物質が放出さ  
れる前に避難するという設定。

● 緊急速報メールとはどういうもの  
か。放射性物質放出前の避難なの  
に、スクリーニングは必要か。通  
行止め、渋滞などが起きた場合、  
ヘリなどの輸送を考えているか。

新潟県 緊急速報メールは柏崎市、刈  
羽村の全域の個人の方に、携帯でメ  
ールが届く。また実動部隊の練習の  
ため、今回スクリーニング訓練も行う  
道路、車だけでなく、鉄道、船、ヘ  
リコプター等も活用した内容を防災  
計画に組み込むため関係機関と協議  
を行っている。

● 緊急速報メールの事前周知を市民  
にどう広報するのか。FMピッカ  
ラでの放送時間帯はいつか。

柏崎市 緊急速報メールの配信につい  
ては、広報かしわざき3月5日号に  
併せ、詳しいお知らせを全戸配布し、  
冠婚葬祭業者へも別途連絡対応させ

ていただいた。また前日午後6時  
当日の朝7時45分に防災訓練を行う  
旨を全市域に放送する予定。  
新潟県 県でも一週間前から、FM新  
潟とFMポートによる全県事前案内  
放送を考えている。

● 福島の事故の際にオフサイトセンタ  
ーは放射能が入り機能しなかった。  
気密性はどうか確保するのか。また  
有事の際、代替となる第2オフサ  
イトセンターはどうかになっているか。

新潟県 福島のような事故が起こった  
場合のオフサイトセンターの活用は  
まだ固まっていない。施設の気密性  
向上については今年度、来年度の2  
年間、2億円をかけて工事を行う。  
第2オフサイトセンターについては  
検討を進めている。

● 事前周知のラジオ放送は、AM放  
送では行わないのか。

新潟県 予算の都合もあり考えていな  
いが、他に新聞での告知も考えている。

## 【防災訓練について委員から 感想・要望】

● 前回の訓練では、風向きで防災無線  
が聞こえないなどの意見が出された。  
前回の意見を踏まえ必要な対策を生  
かしてほしい。

● 実際事故になれば一時的な避難では  
すまない。環境汚染が進んで内部被  
ばくした場合は、何ヶ月、何年にも  
渡って苦しむことになる。とても安  
全安心につながる問題ではない。

● 災害時には、まず、地域の自主防災会  
消防団、町内の役員で要援護者を中  
心に安否確認を行うことを考えてい  
る。名簿の整理、食料や水の確保、  
ヘリでの救急搬送なども考えながら  
地域の体制作りを行っている。

## 概要

開催日 平成25年3月6日(水) 場所 柏崎原子力広報センター 出席者 15名(欠席10名)  
オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、地域担当事務所(工ネ庁)、東京電力(株)  
内容 ● 新安全基準の骨子案および原子力防災訓練の概要について説明を受け質疑応答



## 原子力防災訓練に参加・視察して

出席者 20名（欠席5名）

開催日 平成25年4月10日（水） 場所 柏崎原子力広報センター

オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所（原子力規制庁）、地域担当官事務所（工ネ庁）、東京電力（株）

内容 ●原子力防災訓練に参加・視察して

### 概要



メインテーマは3月23日に実施された「原子力防災訓練」。

オブザーバーから、原子力防災計画と訓練の説明や感想があった。

委員は、訓練を視察したり、地域の訓練に参加した感想などを述べた。

### ■原子力防災訓練の感想・要望等

●規制庁は、情報発信のメリット、デメリットを踏まえた柔軟な対応の検討が必要と言ったが、どんなささいなことでも速やかに発表してもらいたい。それが大切ではないかと感じる。

●オブザーバーセンターで、県庁とのTV会議などのやりとりを見学した。住民の安全安心を守る防災システムの向上には目を見張るものがある一方で、防災行政無線が流れなかったり、道路の渋滞などの問題もあった。防災を考えるよりも安全なエネルギー確保を考え直してほしい。人類は原子力をコントロールできない。

●即時的な情報発信は重要だが、誤解されない最大限の配慮が必要。柔軟な対応に期待したい。県、市、村は訓練についての検証や改善を速やかに出してほしい。

●発電所内の訓練を視察した。対策本部では、確実に活動出来るよう各班に情報端末を装備し喧騒をなくす改善を、海水注入訓練では、全号機同時対応も視野に入れた活動をしていった。今後具体的な項目に絞り込み、段階に応じた的確な対応訓練で実績を積み重ね、防災技術や器材の改良など安全に結びつける姿勢を継続してほしい。

●原子力発電に頼らない、安全で安心できる発電システムを望む。

●訓練がシナリオ通りに進んだからと言って、これで安心という事にはならない。複合災害時にはどんなことが起きるか想定できない。自分自身で状況を判断して行動できることが一番大切と思う。市は県の指示待ち、県は国の指示待ち、指示待ちも大切だが、手遅れになることも多く柔軟な対応も必要。どのように逃げるか、どこへ逃げるか、ふだんから家族で話しあい心掛けることが大切。

●今回の訓練は第一歩だが、より深刻で現実的な訓練になればなるほど不安や心配は増える。それよりは国も事業者もエネルギー政策を見直す方向にぜひ踏み出してもらいたい。

●工リメールアドレスを全市に配信したことは良かったので他の訓練でも使うべき。国は住民避難の範囲を30kmとしているが、福島事故ではこれを超える飯館村でも全村避難した。避難計画が絵に描いた餅にならないか懸念している。「法律上は地域防災計画が整備されていないと再稼働できないわけではない」という原子力規制庁の言葉は非常に無責任だと感じる。

●オブザーバーセンターで訓練を見学した。国がどれだけ情報を捉えていたか疑問が残る。全て東京電力に状況を聞かなければ判らないではない。事故が起きた時、国も的確に情報を把握し、その情報を全てきちんと住民に知らせ説明することが、住民の信頼を得る上でも大切。また、実効性のある防災計画は果たしてありうるのか。避難用のバスは本当に来るのか、被ばくを恐れず運転手は来てくれるのか、避難する自家用車は何台くらいと想定しているのか。それで本当に避難ができるのか。

### ■地域の訓練に参加して

●地域の訓練に参加し、湯沢の公民館に避難したが、その際原子力文化振興財団の放射能は心配ないという主旨のパンフレットが配られていた。これは主催者が用意したのか、この財団が独自に配付したものか確認したい。

●原子力発電所は深層防護、5重の防御で最悪の場合住民を被ばくさせないというが、この第5の条件が防災訓練、防災計画に相当するのか。またSPEEDーは、福島事故の反省から、天気予報のように風向などの一次情報を速やかに公表することをまだ決めていないのか。抗議を含めて聞きたい。

●町内の自主防災会として訓練に参加したが、一部市からの広報が流れず



●松波コミセンを視察したが、情報伝達に重点が置かれる中で、市の防災行政無線が流れなかったことは最悪。一昨年、津波避難訓練のときにも流れず、二度も続けてこのような事態を起こすとは、何を考えているのか。

●住民が混乱した。住民が車に乗り合わせるのに自家用車避難は、予想どおり大渋滞。今後は道路の整備が重要と感じた。また受け入れ先の訓練で、糸魚川まで避難したが、受付と弁当を食べて帰ってきただけで、これで訓練になるのかという思いだけが残った。

●地域の訓練に参加し湯沢へ避難する途中、塩沢石打SAでスクリーニングを受けた。移動のバス車内で、発電所の状況や風向きなど心配したが、情報が全く入らなかったことが残念。



●市の防災行政無線が鳴らなかったことは、日頃の維持管理、点検が問題であり非常に大きな汚点。市職員による緊急時地区派遣隊は、緊張感を持った対応を徹底してもらいたい。

●防災行政無線が鳴らなかった。不具合の場合の対応、対策もマニュアルに入れるべき。また避難の際、渋滞の対策として道路の付け替えや整備が必要と感じた。

●原子力規制庁は、マスクと競争するくらいに情報を提供しなければならぬのではないかと。

●地域の防災訓練に参加したが、有事の際にはコミセン単位で対応するというが、果たしてやりきれぬのかと不安を感じた。町内ごとに情報が逐一伝わるようなシステムが構築されなければ、情報を待つ住民は安心できない。

### ■「地域の会」への意見等

●地域の会の目的をもう一度見直す必要があると感じる。事業者や国、行政への批判の場ではなく、提言の場であると思ってきた。事業者や国、行政は、住民の安全安心が第一であることを充分に認識した上で我々の提言を受け取ってもらいたい。

●地域の会は10年の節目を迎え、どうあるべきか、果たすべき役割は何かを原点に戻り考える必要があると思う。大地震による原発の危険性が心配されている。地域の住民の代表として原発の再稼働について真剣に議論する時がきている。この会が、住民の安全安心のために大きな役割を果たすことを期待し、見守り続けたい。近い将来には、原発に頼らない地域経済や活力あるまちづくりの議論ができる日がくることを願う。

●任期当初は、3・11直後で会も紛糾しており、専門的で大変な会だったという思いを改めて認識している。この会で勉強したことをしっかりとまわりに伝えていきたい。また、普段の生活の中でニュースを見る機会は意外に少なく、情報の取り方も考えていきたい。一人ひとりが能動的に行動する意識を持つことが必要と感じた。



（裏面も参照ください）



# トピックス

## 原子力防災訓練の視察の様子

期 日：平成25年3月23日（土）  
 視 察 先：オフサイトセンター、柏崎市役所 4階防災対策本部、  
 松波コミュニティセンター、柏崎原子力広報センター  
 参加委員：8名 地域の訓練に参加した委員：5名



柏崎地域振興局での模擬記者会見の様子



オフサイトセンターに災害対策本部を設置



柏崎市の災害対策本部の様子



自家用車避難訓練の様子  
…大渋滞した



避難用バスに乗り込む住民  
…広域避難の訓練を行った



## 発電所を巡る主な動き

2月6日～4月10日

2月6日	原子力規制委員会 事業者との面談についてのルールの見直しを行い、原子力規制委員会の業務運営の透明性の確保のための方針の一部を改正 平成25年2月7日付朝日新聞1、2面「東電、国会事故調に虚偽」について公表 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認 原子力規制委員会 電気事業法に基づく溶接安全管理審査（平成24年度第2四半期分）の結果及び評価結果を東京電力を含む原子力設置者に対して通知 原子力規制庁 柏崎刈羽原子力規制事務所における事業者への軽微な指摘（平成24年度第3四半期分）について公表 原子力規制庁 平成24年度第4回保安検査（保安規定の遵守状況の検査）の実施について公表 「国会事故調への当社の対応に関する第三者検証委員会」の設置について公表 新潟県 平成24年度第6回技術委員会開催	2月18日	6号機の保全計画の変更届出について公表 柏崎刈羽原子力発電所の「原子力事業者防災業務計画」の修正ならびに届出について公表 原子力規制委員会 柏崎刈羽原子力発電所1号機における燃料棒同士の接触についての法令報告を受ける 柏崎刈羽原子力発電所における燃料集合体ウオータ・ロッド曲がりに関する調査状況について（続報）公表 4号機 残留熱除去系電動弁の不具合について公表 新潟県 原子力防災訓練を実施 1号機における「原子炉施設故障等報告書」の提出について公表 新潟県 新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議を開催 柏崎市 平成24年度第2回防災会議を開催 柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の取り組み状況について公表 福島第一原子力発電所1～4号機の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ進捗状況（概要版）公表 福島第一原子力発電所1～4号機所内電源系の停電事故について「概要」公表
3月11日	新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認 5号機 所内蒸気系（非放射性）凝縮水受けタンク内における放射性物質の検出について公表 国会事故調への東京電力株式会社の対応に関する第三者検証委員会「検証結果報告書」について公表 新潟県 平成24年度第7回技術委員会開催 柏崎刈羽原子力発電所における低圧タービン動翼取付部の点検について公表	3月18日	「平成25年度供給計画」の届出について公表 平成25年度使用済燃料等の輸送計画について公表 「福島原子力事故の総括および原子力安全改革プラン」（概要版）について公表 「2013年度事業運営方針」の策定について公表 5号機 使用済燃料プールにおける物品の確認について公表 国際原子力機関（IAEA）による福島第一原子力発電所1～4号機の廃炉措置等に向けた取り組みに関するレビューの実施について公表 今夏の電力需給に関する情報の経済産業省への報告について公表 ソーシヤル・コミュニケーション室の設置について公表
4月10日	柏崎刈羽原子力発電所における低圧タービン動翼取付部の点検について公表	4月10日	柏崎刈羽原子力発電所における低圧タービン動翼取付部の点検について公表

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分  
 ※詳細は、各機関のホームページをご覧ください。  
 ■色は行政の動き ■色は東京電力の動き

### 今後の「地域の会」定例会の開催案内

**第121回定例会**  
 日時：平成25年7月3日（水）午後6：00～（予定）  
 場所：刈羽村生涯学習センター ラビカ 文化ホール  
 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせください。

**第122回定例会**  
 日時：平成25年8月7日（水）午後6：30～  
 場所：柏崎原子力広報センター  
 会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。  
 ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

### 編集後記

平成15年4月に柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会の予備会議、5月に第1回定例会がスタートし、平成25年4月に第118回定例会を終え、本会も10年が経過した。  
 各委員・オブザーバーは平日の就労後の会議であり、都合をつけるのが大変であったと思う。  
 原子力行政又は発電所に関する疑問や問題点を各委員の立場で質問し、この会でなければ得られない多くの回答を得ることができたと思っている。  
 10年を経て11年目がスタートするにあたり考える。この会が知った貴重な情報を多くの住民にだけ伝えることができたのだろうか？  
 5月119回定例会で新委員も加わった。推進・反対・中立の住民目線でいかに発信し、住民の意見にそっての質問と、それに対する回答を引き出すことができるのか？11年目からの課題と思う。  
 （委員 三宮 政邦）